



●平成31年度（令和元年度）FD企画実施報告●

Contents

01 第3回・第4回
Café FDを開催しました！

02 授業での発声講座

03 LGBTsフリートークの会

04 令和元年度 教育改革講演会
「新たな時代の大学教育とは
—自ら学び続ける力を育てるために—」

05 平成31年度（令和元年度）FD推進委員一覧

06 編集後記

第3回・第4回 Café FD を開催しました！

01

「カフェ FD」や「FD カフェ」は、他大学でも行われている FD 研修のかたちの1つです。FD 研修と言えば、テーマや課題を設定し、それに対してグループ討議を行い、参加者で発表しあうかたちがよく用いられます。

ところで、本学の FD 推進委員会では、大学全体で行う「大きな FD」に対して、気軽に参加しやすい「小さな（コンパクトな）FD」の開催を考え、昨年度より、半期に一度実施してきました。また、堅苦しいグループ討議などを考えず、まず参加者のコミュニケーションを第一にして、身近な話題を提供していただく方式を取らせていただいております。そこに「お茶」や「お菓子」があり、15時のティータイム、すなわち「Café FD」として運営しております。

今年度は、第3回（8月2日金曜日）、第4回（2月21日金曜日）を実施しました。

参加者は、運営側も含めて、第3回が14名、第4回が15名でした。第1回目から参加していただいている先生方の中には、教務部、共通教育部、キャリアセンターの主要な役職を担当されている先生方もおられ、教学部門の最先端の話題も交えることができ、とても有意義な時間となっています。

第3回では、3つのテーブルに分かれ、初期演習の改革の話題や授業改善のアイデアに及びました。学内情報の交換だけでなく、授業改善に結びつくような会話に進んでいたように感じました。



第4回では、ただ単なるコミュニケーションの場ではなく、従来行われていた全国大学実務教育協会主催「能動的学修の教員研修

リーダー講座」参加者による勉強会をジョイントし、問題提議として、話題にするように趣向を凝らせました。会の前半に今年度、その講座に参加された生活環境学科の古濱裕樹先生から、「アクティブ・ラーニングの導入」について報告いただく中で、講座で学んだことを実際の授業で実践して効果的だったことや、逆にあまり活用できなかったことなどについて話題提供していただきました。その内容を受けて、後半は3つのテーブルで、さらに深い内容で会話が進んでいきました。

次年度も開催を予定しており、参加者からのご意見を聞きながら、マンネリ化することなく、新たな取り組みを今後も重ねていきたいと考えております。皆様方からのアイデアも募集しております。ご参加いただけなかった教職員の方々、一度、気軽に足を運んでください。

最後に、古濱先生の「次回も参加します」という心強いお言葉に、少しホッとした運営側でした。ご参加いただきました教職員の方々ありがとうございました。

(FD 推進委員長 保井 俊英)



※「能動的学修の教員研修リーダー講座」への参加者募集について

毎年、一般財団法人全国大学実務教育協会主催「能動的学修（アクティブ・ラーニング）の教員研修リーダー講座」への参加者を1名募集しています。学生の理解を高めるためにアクティブ・ラーニングを効果的に活用したいとお考えで、研修講座に関心をお持ちの方は4月17日（金）までに教育開発支援室*へお申込みください。詳細はinfo@MUSESで案内しています。（対象は本学の専任・嘱託教員となります。）

* 4月より部署名が「教育開発推進室」に変更となります。

授業での発声講座



昨年大好評であった「授業での発声講座」を、今年度も講師を音楽学部の大森先生にご協力いただき開催しました。10月1回、11月2回、12月1回と計4回、場所は音楽館2階のレッスン室で各回約1時間ずつ実施され、参加者数はのべ19名でした。

「授業の終わりの方になると声がよくなる」「喉に負担をかけず楽に大きな声を出せるようにしたい」等、授業内で声の悩みを抱えておられる先生方に発声トレーニングを行っていただきました。主に、鼻腔の共鳴や顎の動き、楽に発声するための呼吸の仕方等について、大森先生のピアノの旋律に合わせて練習します。大きな声を出す際、普段気を付けていないと喉に力を入れて発声しがちですが、鼻腔の共鳴（振動）を活用して息が鼻に抜けるように発声すると声が響くため、楽に大きな声を出すことができるようになりました。また、呼吸の仕方についても、できるだけ腹式呼吸を意識することにより、自然と息が体に入ってくるようになるので、呼吸の仕方ひとつで喉の負担が軽減されるようになります。回を重ねていくにつれて、幅広い音域を発声できるようになり、場面によって声色を変える必要のある際にも活用できるようになりました。昨年度から引き続き参加された先生方からは、授業の中でこれらのポイントを意識しながら発声することで、喉への負担が減り、連続コマがある日でも少し楽に授業ができるようになったというお話も伺っています。

また、講座の中で声が出にくい場合は、顔の位置や発声のポイントを再度説明するなど、大森先生が受講者全員の緊張を解きほぐして下さりながら終始和やかな雰囲気で行っていただくので、緊張せず気持ちよく発声することができ、気持ちまでもリフレッシュできた楽しいひと時でした。

(FD 推進委員 岩本 直子)

LGBTs フリートークの会

この会は、LGBTs 当事者学生が「自分たちの声で先生方に本音を伝えたい」という思いから始まりました。近年、FD 推進委員会の企画では学生に参加してもらう機会がなかったこともあり、準備段階から3名の当事者学生と調整を重ね、共に作り上げたものとなりました。

学生のアイデアをもとに当日の運営方法を検討し、事前に「当事者学生への質問」を教職員が無記名で記入できるように google フォームを作成しました。また、学生と話し合っ中で、予備知識がない教職員も参加しやすいように、急遽、ジェンダーが専門の共通教育部の西尾亜希子先生に導入講義をお願いすることとなりました。

会の実施日は11月21日（木）で、当日は教職員23名の参加がありました。前半部分に西尾先生の導入講義があった後、学生の自己紹介を含めて教職員からの質問への回答を学生に行ってもらい（表1）、3グループに分かれてフリートークという流れで進みました。最後は参加した教職員から学生への拍手で和やかに閉会し、3名の学生から笑顔が溢れたことが印象的でした。会の終了後にアンケートを実施したところ、参加した教職員からは、「かなり身近に多様な学生がいることを再確認した」「具体的にどのような支援が可能か知ることができた」というコメントがありました。また、学生からも「このような機会を作ってもらえて嬉しかった」「すぐに行動に移してくれるという話も出て、やってよかった」等のコメントをもらっています。

表1 教職員から寄せられた事前質問に対する学生の回答（配布資料から一部抜粋）

1	本学や大学などの教育機関に望むことや期待することは何でしょうか。ハード面、ソフト面であれば教えてください。 A. トランスジェンダー（体が男性で心が女性）の学生の受け入れやジェンダー、LGBTsに関する講義を増やして欲しいなと思います。
2	日々の大学生活で「困っていること」はありますか。 A. 入学時の制服がスカートのみである点や、パンツスーツも女性らしいデザインであるという点です。
3	大学生活以外の日常生活で「困っていること」はありますか。相談場所があればいいと思いますか？ A. 恋愛の話を辛いことと、周りの目を気にしすぎてしまうことです。個人的に、相談窓口は欲しいと思います。
4	学内や学外の相談窓口での対応は、男性でも女性でもよいですか？ A. 性別は問いません。
5	普段の会話で、何気ない一言でも「言ってほしくない言葉」などはありますか。 A. 自分の価値観を押し付ける言葉（結婚し、子供を生むことが幸せだ等）はあまり聞きたくないです。

FD 推進委員会として、ジェンダーに関するテーマや、当事者学生に実際に参加してもらう形の会を取り扱うことが初めてということもあり、注意しなければならない点を手探りで探しながらの企画・運営となりました。このような企画を通して、さらにより良い教育環境や授業内容等を学生に提供することができるよう FD 推進委員会を通して全学に働きかけていければと思います。

最後に、西尾先生をはじめとして、実施するにあたり協力して下さった多くの教職員の方と、あたたかい雰囲気を作ってくださった参加者のみなさまにお礼申し上げます。そして、卒論などを抱えながらも一生懸命に準備した3名の学生に心から拍手を送ります。

(FD 推進副委員長 寺井 朋子)



令和元年度 教育改革講演会 「新たな時代の大学教育とは—自ら学び続ける力を育てるために—」

04



本学が教育・研究にかかる包括連携協定を締結している関西大学より教育推進部 森朋子教授をお招きし、令和元年6月5日（水）に教育改革講演会を開催しました。

講演の前半は、ご専門である学習研究の立場から「教える」から「学ぶ」への大学教育のパラダイム転換について説明されました。

今後20年を見据えた高等教育の将来構想である「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン（答申）」や第3期に入った認証評価では、学修者が何を学び身に付けたのかを明確にする「学修成果の可視化」と、その基盤である「内部質保証システムの構築」が重視されています。しかし先生は「授業は教員が教えることと学修者が学ぶことの共同作業です。学修者がどう学んだのかを理解して初めて課題や改善点があり、教えるためのデザインが出来ます。“教える”と“学ぶ”を往還しながらスパイラルアップしていく営みが大切で、目の前の学生の学びの質を高めるための改革を行えば、結果として高等教育政策や認証評価への対応に繋がっていくのではないのでしょうか。」と述べられました。

後半は、関西大学の取り組みをご紹介いただきました。大学教育における内部質保証の範囲を正課、準正課、正課外とし、1年次にベースストーン科目、3年次にキャップストーン科目を組み込み、関西大学としてのキーコンピテンシーである「考動力」を意識する教育プログラムを入れ、全ての活動を教学IRで可視化しています。この全体像は教員や学生をはじめとする学内関係者に留まらず、誰が見ても分かりやすく説得力があります。中でも「考動力」は、大学のディプロマ・ポリシーを集めて切片化した上でKJ法を繰り返し、最終的に10項目程度にまとめたものであり、全ての学士課程と併設高校において測定しているとのことでした。関西大学にしか出来ない教育を推進する仕組みがしっかり作られていると感じました。講演後は森先生に、自身の授業や学科の教育について直接質問される先生もあり、関心の高さが伺えました。

本学でも立学の精神及びそれに基づく教育目標を元に3つのポリシー^{*}を設定し、計画的に教育活動とその改善が行われています。今後は創立80周年を機に掲げられた MUKOJO Vision 及び MUKOJO Principles を具体的な目標とする大学全体の教育のグランドデザインを策定し、共有化して更なる教育改善を図っていくことが重要であると思いました。

(FD 推進委員 田中 邦子)

^{*}3つのポリシー

- 入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー：AP）
- 教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー：CP）
- 卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー：DP）



平成31年度（令和元年度）FD 推進委員一覧

05

1	役員	所属	氏名	7	役員	所属	氏名	13	役員	所属	氏名
1	委員長・委員	健康	保井 俊英	7	委員	環境	三宅 正弘	13	委員	看護	川端 京子
2	副委員長・委員	共通	寺井 朋子	8	委員	食物	上田 由美子	14	委員	教務部(業学)	中村 一基
3	委員	日文	管 宗次	9	委員	情報	天野 憲樹	15	委員	教務部	稲積 包則
4	委員	英文	山根 明敏	10	委員	建築	田崎 祐生	16	委員	学生課	三好 雅之
5	委員	心福	佐方 哲彦	11	委員	音楽	松浦 伸吾	17	委員	教育開発支援室	田中 邦子
6	委員	教育	藤本 勇二	12	委員	薬学	岡村 昇	18	委員	教育開発支援室	岩本 直子

編集後記

06

元号が平成から令和に変わったこともあり、FD ニュースのレイアウトを今回大きく変えてみました。文字だけでは中々伝わりにくいので、出来るだけビジュアルでもお伝えできるよう工夫しています。

ここ数年のFD 推進委員会は、普段の何気ない会話の中にある小さなFD を大事にしようという目標のもとで活動していますが、それが実現した企画がいくつかあります。特に今年度は、学生が授業を担当する教員へ話したことに端が発し、その教員からFD 推進委員へといった形で話が進み、LGBTs についての内容を初めてFD として取り上げました。また、この企画は当事者学生達が会の内容から当日の運営まで担ってくれた初めての学生FD の機会となりました。このように今後も普段の何気ない会話の中にあるヒントやアイデアから小さなFD を少しずつでも実現していき、その結果大きなFD に繋がるよう先生方と一緒に活動していければと思います。(N.I.)